

## 今月の一言 NO.205

### キーワード：江戸時代の子供のしつけ その2

江戸時代のしつけは「三<sup>みつ</sup>つ<sup>こころ</sup>心、六<sup>むっ</sup>つ<sup>しつけ</sup>躰、九<sup>ここの</sup>つ<sup>ことば</sup>言葉、十二<sup>じゅうにふみ</sup>文、十五<sup>じゅうごことわり</sup>理」

#### 九つ言葉（このつことば）

九歳までに、どんな人にも失礼にならないあいさつや、他人への口の利き方を教える。特に、人間関係を円滑にする挨拶ができることが必要で、気配りの心をもった挨拶ができることを九歳までに身につけるよう徹底した。

自分の言葉で話ができるようにと、親がいろいろと話しかけ、会話を通して語彙を増やし言葉の使い方を学ばせた。

#### 十二文（じゅうにふみ）

十二歳までに、文字を自在にあやつり、きちんと中身が伝えられる文章を書けるようにする。

親に何があっても直ぐに跡を継げるように一家のあるじの代わりに手紙を書けるようにしておくことである。注文書や請求書、苦情処理の弁解書もまがりなりにも書けるよう鍛育していた。実用的な書類の作成から、相当の作文力まで求めていたことになる。

#### 十五理（じゅうごことわり）

「十五理」とは、経済、物理、科学などの森羅万象の自然の原理を暗記でなく実感として理解できるようになること。

9・12・15歳の「言葉・文・道理」は主として学校教育。15歳の「総合知」

## 躰は身を美しくと書きます。

2019年1月25日

さいのう とおる

追伸：インフルエンザ流行しています。うがいと手洗いの徹底をお願いします。